

〈 論 説 〉

ジョークの語用論的考察と異文化理解への応用

田中 雅敏

1. はじめに

アメリカ合衆国のメドウズ教授 (Donella Meadows) は1990年に *State of the Village Report* (村の現状報告) と題したコラムを発表した。そこでは、世界をひとつの村にたとえ、人種、経済状態、政治体制、宗教などの差異に関する比率はそのままに、人口だけが1,000人に縮小して数値化されている。これがインターネット等を介して伝えられていくうちに、人数が100人でたとえられるようになり、また部分的に内容の追加や削除がなされ、*If the world were a village of 100 people* という名前で世界中に流布した。日本では、翻訳家の池田香代子氏が再話し、『世界がもし100人の村だったら』(2001年) から『世界がもし100人の村だったら お金編』(2017年) (いずれもマガジンハウス社刊) までが刊行されている。内容は、たとえば(1)のようなものであるが、数値化してしまうとマジョリティとマイノリティが数の多寡によって絶対的に決まってしまうという点が重要である。

(1) 世界を100人の村にたとえると？

- a. 52人が女性で、48人が男性です。
- b. 70人が有色人種で、30人が白人です。
- c. 1人が大学教育を受け、自分のパソコンを持っているのは2人です。
ですが、14人は文字を読むことができません。
- d. 99人の母語は音声言語で、1人の母語は手話です。

本稿では、ジョークが連帯性 (solidarity) を求める人間の本能的な活動であって、自分をマジョリティ側に置くことで一種の安心感を得ようとする言語活動であることを見る。ただし、マジョリティとマイノリティは相対的なものであり、ある人がある集団にいとマジョリティになるが、別の視点に立つとマイノリティになることに注意しなければならない。そこでは、集団に属する人の数 (絶対値) ではなく、集団の切り取り方 (相対的) が重要であり、単一文化に見える社会でも、実際には多文化であることが認識されなければならない。

2. 「おかしみ」の分類

McDonald (2012) は、ジョークを「明確な構成と落ちがあるもの」と定義したうえで、世界最古のジョークは紀元前2900年ごろのシュメール人による記録に見られるとしている (Cf. (2))。

(2) McDonald (2012: 12)

Humour occurs in some of the oldest texts in existence, such as those written in cuneiform in ancient Sumer up to five thousand years ago. Many Sumerian riddles and proverbs clearly have a humorous dimension, and some Sumerian tales have structures akin to those found in modern jokes, such as the riddle form and the 'rule of three.'

「おかしみ」の分類は、(3) の通りであり、ジョークは言葉を媒介にし、相手を誘導し、高みに上げ、落とす ('rule of three') ものを指すが、(3 a-d) 全体を広義のジョークとすることもある：

(3) おかしみ (広義)

- a. ジョーク… (言葉) 相手を誘導し、高みに上げ、落とす。
- b. ユーモア… (心・センス) 必ずしも言語表現を必要としない。
- c. ウィット… (言葉・センス) 言語表現を用いたユーモア。

- d. エスプリ… (知性) 軽妙洒脱な受け答え。人を刺す言葉。

たとえば、(4), (5) は、言葉の多義性を利用したウィットの例として理解できる：

- (4) a. 北海道の政治家は一言余計なことが多くないですか？
b. そりゃあ、北海道にはシツゲン (湿原, 失言) が多いからね。
- (5) (根津俊弘氏)
a. 沖縄の神社では、おみくじに凶しか出ないらしいね。
b. これ以上キチ (吉, 基地) は要らないんだろうね。

ジョーク、ウィットの例は、さらに4節で紹介しつつ、ジョークの言語構造を分析する。次節では、まず、社会構造におけるジョークの位置づけについて概観する。

3. 言語形式、社会構造、ジョーク

一般に、ハイコンテキスト言語では、オノマトペや表意文字の発達が観察される。オノマトペには、会話の参与者に場 (の雰囲気) を共有させる機能があると指摘されており (Cf. 新谷 2014)、このような社会では連帯感を感じやすい構造になっていると言える。いわゆる行間を読む文化であり、ジョークの無標項と有標項の落差 (Cf. (13)) を出しづらい。ジョーク (3a) よりも、ウィット ((3c); なぞかけや駄洒落) が発達する傾向にある。ムラ社会であることが典型であり、「出る杭は打たれる」を嫌うため (Cf. (6))、相手に辛辣な皮肉を言うという価値観も少なく、それゆえエスプリ (3d) や政治ジョークは少ない。

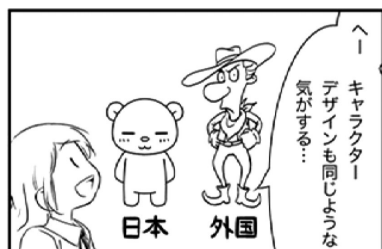
(6) 意識調査：日本人はイエスとノーをはっきり言わないと思うか？



(7) 「北欧女子のつけた日本」 オーサ・イエークストロム

<https://ameblo.jp/hokuoujoshi/>

他方、ローコンテキスト言語では、オノマトペが少ない。基本的に行間は読まず (Cf. (7)), ジョークのときの「推論」と「結論」の落差に面白みが生じる。個人の信念を公にしやすく、体制批判などのジョークや風刺画が多用される傾向にある。



宗教や政治体制は、ジョークの題材になりやすい。これは、後でも述べるが、連帯性に関わるものであって、話し手と聞き手がともにマジョリティ集団にいる場合には、マイノリティを題材にすることによって一体感を生み出そうとする機能が働くからである。ただし、すでに述べた通り、マジョリティかマイノリティかは、相対的なもので、話し手と聞き手がどちらの集団に属しているかによって、ジョークの持つ意味合いが変わってくる (攻撃的なジョーク、自虐的な



ジョーク)。たとえば、(8)は、言葉の多義性を利用しているウィットであるが、聞き手を誘導しつつ、最後にギャップを与えることによって笑わせているため、ジョークの例にもなりうる。この場合、話し手と聞き手がともにTUの関係者であれば「自虐的な笑い」となり、そこに連帯感が生まれる。一方で、話し手と聞き手がともにUTの関係者であれば「攻撃的な笑い」を通して同じく、そこに連帯感が生まれる。また、話し手がTUで、聞き手がUTであってもジョークとしては自虐的であり、UTはおそらく苦笑いすることになるが、話し手がUTで聞き手がTUの場合には、お互いにいい気分にはならないだろう。

(8) a. 東洋大学 (TU) の学生さんと東京大学 (UT) の学生さん、どこが違いますか？

b. いや、変わらんでしょ、キョウヨウ (京/洋, 教養) が違うだけで。

(9) の例でも、同様に、自虐的となるか攻撃的となるかは、話し手と聞き手の母集団を考えなければならない。

(9) ナチ党員「どうして海のない国のチェコに海軍省があるんだ」

チェコの案内人「ではどうしておたくの国には司法省があるんです？」

4. ジョークとウィットの言語分析

4.1. ジョークの構造

Schopenhauer (1819) では、笑いを次のように哲学的に分析している：

(10) (Schopenhauer 1819: 88)

Das Lachen entsteht jedesmal aus nichts Anderem, als aus der plötzlich wahrgenommenen Inkongruenz zwischen einem Begriff und den realen Objekten, die durch ihn in irgend einer Beziehung gedacht worden waren, und es

ist selbst eben nur der Ausdruck jener Inkongruenz.

(笑いが生じるのはいつでも、概念と、何らかの関係においてこの概念によって思考された実在の客観とのあいだにとつぜん認められる不一致からにはかならず、笑いはそれ自身、まさにこの不一致の表現にはかならない。)

(11) 「仕事をしながら口笛なんて吹くんじゃない!」「仕事をしながら口笛なんて吹いていませんよ。ただ口笛を吹いているだけです。」

ジョークは、聞き手の想定とずれていた場合にのみ「おかしみ」が生じる。この「想定される形」を言語学的には無標形 (unmarked form; Cf. (12a)) といひ、そこからずれている、「想定するのに負荷のかかる形」のことを有標形 (marked form; Cf. (12b)) という。

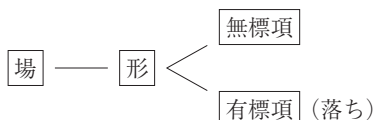
(12) 「もしもし、健太くん? あの、お父さんいる?」「いらなーい!」

- a. お父さん居る／居ない
- b. お父さん要る／要らない

たとえば、(11) では、「仕事中に口笛を吹くな」と注意された部下がとる次の行動として、聞き手は、「口笛を吹きつつもちゃんと仕事をしているじゃないですか!」とでも反論しそうだと期待する。これを無標形とすると、「実際には仕事をしていない」という有標形が示されて、落ちる。

ジョークの構造は、模式的には (13) のようになる:

(13) ジョーク…場の設定 → 誘導 (形) → 無標項と有標項の隔たり



無標形・有標形は、言語に個癖的なもの (= (14))、言語構造によって操作されるもの (= (15))、文化によって決まっているもの (= (16)) など、多様であり、運用されている言語に対する知識や、場面設定に登場する文化や社会についての知識が欠かせないことになる。

(14) 閑さや岩にしみ入る蟬の声 (松尾芭蕉)

- a. 日本人「どの種類の蟬だったんだ？」
- b. イギリス人「蟬は何匹いたんだ？」

(15) a. みんなが一種類を選ぶ。

- b. 一種類をみんなが選ぶ。

(16) 奥さんたちお元気ですか？

- a. ええ、でもちょっと長女が風邪気味で。
- b. ええ、でもちょっと第三夫人が風邪気味で。

(14) では、名詞に複数形がない日本語の母語話者にとっては、蟬の数よりも種類に興味に向いているのに対し、英語話者にとってはその数が問題となるという言語個癖性が示唆される。(15) では、数量詞の作用域 (scope) が統語的に操作されることによって、分配読み (一人ずつ一種類) か特定読み (全員が特定の一種類) かが変わってくる事実を示している。(16) は、一夫一婦制の社会では「奥さんたち」と言われれば「一人の妻と、それ以外の (たとえば) 子供」と解釈されるが、一夫多妻制の社会では文字通り「複数人の妻」という読みになることを表している。

4.2. ウィットの構造

Greimas (1970) は、意味範疇「イゾトピー (Isotopie)」の概念を用いて、ウィットを意味論的に説明しようと試みた。イゾトピーは、物語を一義的に読

むことを可能にする意味範疇であり、同位体間の階層性（上位概念・下位概念）や単純な語句の反復が観察されるとき、そこに見いだされる意味に一貫性があれば、それを意味の同位体（イゾトピー）と認定できる、というものである。たとえば、*Ball* という語があるとき、(17a, b, c) のどの意味であるかは、関連同位体（波線部）から読み取ることができる。

(17) Der Ball war gut. (あの Ball は良かったね)

a. Ja, es war eine schöne Feier. (Ball: 舞踏会)

(そうね、素敵なパーティだったよ。)

b. Ja, so einer Kurve kann man nicht so leicht folgen. (Ball: ボール)

(そうね、あんなカーブにはそうそう追いつけないさ。)

c. Ja, wir konnten die Hunde sehr gut hetzen. (Ball: 猟犬の声)

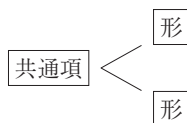
(そうね、犬たちをうまくけしかけられたね。)

ウィットは、あるイゾトピーに突如として別のイゾトピーをぶつけることで生まれる。たとえば、(18) の例では、イゾトピー（「敵」）にイゾトピー（「素敵」）をあてがっている。

(18) ぜいたくは素敵だ。

ウィットの概念構造は (19) のようになる：

(19) ウィット…共通項（形の類似）⇔イゾトピーの隔たり



ただし、単なる言葉の意味だけでなく、その背景を知らなければ笑えない。戦

時中のスローガン（「ぜいたくは敵だ」）を知っている人であれば、(18) を聞けば何らかの反応を示すだろう。ジョークやウィットが理解されない場合、それは聞き手の背景知識の欠乏、あるいは話し手と聞き手で共通認識されるべき場がずれていることによって、期待されたところまで誘導が十分に形成されていないのである。

次節では、ジョークやウィットが用いられる場において、参与者にはどのような心理が働いているのか、語用論的に分析したい。

5. ジョークとウィットの語用論

ジョークもウィットも、聞き手の認識の隔たり（ギャップ）を利用するという点では共通している。このうち、ウィットは、その場の言葉遊びに近く、いわゆる「駄洒落」もこれに含まれる。他方で、ジョークは綿密な場面設定が必要であり（Cf. (13)）、そこには「聞き手を導きたいある種の到達点」があるように思われる。本節では、ジョークが持つ語用論的機能について、「参与者の連帯感（solidarity）」をキーワードに分析する。

ジョークの持つ語用論的機能は、Searle（1969）で言われたような「発語内行為」（illocutionary acts; (20)）として分析できる。

(20) (Searle 1969: 115)

[...] the production of the sentence token under certain conditions is the illocutionary act, and the illocutionary act is the minimal unit of linguistic communication.

この理論によれば、言葉を話すことは、陳述（assertion）、命令（direction）、約束（promise）、依頼（request）、感謝（thank）などの発話行為を遂行することに一致する。

(21) 「君の頭脳と僕的美貌が合わさったら、きっと素敵な子どもが生まれる

よ」「でも、あなたの頭脳が合わさったときにはどうなりますの?」

(21) の例については、前提、無標項、有標項、発語内行為（表意）は (22) のように分析できる。

- (22) a. 前提：長所を褒められて嫌な気持ちになる人はいない。
b. 無標項：長所を褒められて嬉しいだろう。
c. 有標項：断りの口実に短所が用いられる。
d. 表意：断り

- (23) ある年老いたユダヤ人が、臨終の場で彼の手を握っていた妻に尋ねた。「アブラハムはいるかね。」「もちろんいますよ。」「メタシケは。」「もちろんいますよ。家族全員ここにいます。」すると、老人はガバと起き上がって、「じゃあ、だれが店番をしているんだ」と怒鳴った。
a. 前提：臨終の場では、家族が全員揃って看取るものである。
b. 無標項：家族全員に看取られて、幸せな最期となるだろう。
c. 有標項：最期の瞬間まで、店の売上げを心配している。
d. 表意：ユダヤ人はケチである（ステレオタイプ）

- (24) 五歳の子が母親からはぐれてしまい、泣きながら尋ね回った。「ぼく位の男の子を連れていない女の人を見かけなかった?」
a. 前提：迷子が母親を早く見つけるには、人探しの目印があればあるほど良い。
b. 無標項：子どもは自分の母親の目印を必死に伝えるだろう。
c. 有標項：もっとも目印にならないことを答えている。
d. 表意：固定観念の打破

- (25) 医師「ご主人は絶対安静が必要なので、この睡眠薬をすぐに飲んでくだ

さい」患者の妻「ん？ 私が？」医師「そりゃ、あなたですよ」

- a. 前提：絶対安静の人は睡眠薬で眠ると良い。
- b. 無標項：ご主人が薬を飲むのだろう。
- c. 有標項：おしゃべり好きの妻が黙らないといけない。
- d. 表意：先入観の打破

(26) 「失礼ですが、豚肉の不足についてあなたの意見を聞かせてください」

A 国人「失礼って何ですか？」 B 国人「豚肉って何ですか？」

C 国人「不足って何ですか？」 D 国人「意見って何ですか？」

(26) の表意は、ドイツ語にある《Schadenfreude (他人の中に弱点を見つけたときに笑う; Cf. (27), (28))》に近いものであろう。

(27) (プラトン『ピレポス』; 田中訳 2005: 11f.)

「友人の滑稽な性格を笑うとき、喜びと苦痛がまじり合う。というのは、喜びとねたみがまじり合っているからで、ねたみは魂の苦痛であり、笑いが喜びであるということはだれしも認めるところである。だが、この場合、喜びと苦痛が同時に生ずる」

(28) (ホップズ『人間論』; 本田訳 2012)

「他人の欠点、または以前の自分自身の欠点との比較によって、自分の優越性を突如として認識することから生じる突然の栄光以外の何ものでもない」

(29) あるとき総統が湖に落ちた。そこに居合わせた若者が彼を助けた。総統は「お礼になんでも好きなものを言いなさい」と言った。若者は「このことを誰にも言わないで欲しいというのが望みです」と答えた。「なぜ？ 君はいいことをした。英雄になれるんだよ」「それが困るんです、総統。

僕がそんなことをしたと知ったら、世間のみんなが僕の首をねじ切るでしょう。」

(26), (27), (28), (29) で示されているような、表意としての「優越感」や「体制批判」は、その気持ちを参加者が共有することによって一体感を感じることができるものである。これは、人間が動物として「群れ」を形成する上で本能的に備えた感情であろう。これは「連帯性 (solidarity)」と呼べるものである。

6. まとめ 異文化理解に向けて

大阪府内の高等学校で、学校から髪の色を黒く染めるよう強要され、不登校になったとして、高校生が府に損害賠償を求めた訴訟があった。以下、新聞記事を抜粋する：

(30) (毎日新聞2017年10月27日)

頭髪が生まれつき茶色いのに、学校から黒く染めるよう強要され精神的苦痛を受けたとして、大阪府羽曳野市の府立懐風館高校3年の女子生徒が約220万円の損害賠償を府に求める訴えを大阪地裁に起こした。(中略) 学校側は生徒の代理人弁護士に「たとえ金髪の外国人留学生でも規則で黒染めさせることになる」と説明している。

(30) の文章からは「規則」とは具体的にどのような方向性のものか読み取れないが、オーストリア国内の報道記事 (= (31)) を読むと“校則 (Schulregeln)”とあるので、報道が正しいとするならば、この学校には「本学に通学する生徒の髪の色は黒でなければならない」といった方向性の校則が存在していると推測することができる。

(31) (*Kleine Zeitung*, 27. Oktober 2017)

[...] Medienberichten zufolge hatte die Schulleitung dem Mädchen zu verstehen gegeben, dass sogar „ein blonder Austauschschüler seine Haare schwarz färben müsste“, um die Schulregeln nicht zu verletzen. [...]

(報道によると、学校側はこの生徒に「金髪の交換留学生在が本校に来て、校則を守ってもらうためには、髪を黒色に染めてもらうことになる」という旨のことを説明したという。)

この校則の根底にあるのは、「髪の色は黒である」集団をマジョリティととらえ、そこから逸脱する集団をマイノリティと認める意識である。ジョークの例にも通じるが、他方の集団（数の理屈でいうと少数派と見られている集団）を攻撃することによって、一方の集団（絶対数で言えば多数が属していると思われる集団）の連帯感を生み出そうとしている意図が読み取れてしまう。『100人の村』でも述べたことであるが、マジョリティとマイノリティを絶対的な数字で表してしまうと、数の論理で集団が決まってしまう。宗教でも、髪の色でも、肌の色でも構わないが、自分が属していると思われる集団が、果たしてマジョリティかマイノリティなのかという判断は、視点を変えると180°反転するものだ、ということを理解しておかなければならない。そうして、常に相対的な視野でもって自分の立ち位置を眺めてみれば、自文化を外からの目で客観視できるのである。

参考文献

新谷玲 (2014) : 『オノマトペによる共感覚的表現の心理的受容と表象』 東京工業大学大学院 社会理工学研究科修士論文.

オーサ・イエークストロム : 『北欧女子の見つけた日本』 (<https://ameblo.jp/hokuoujoshi/>)

池田香代子 (2001) : 『世界がもし100人の村だったら』 マガジンハウス.

池田香代子 (2002) : 『世界がもし100人の村だったら 2 : 100人の村の現状報告』 マガジンハウス.

- 池田香代子 (2004) : 『世界がもし100人の村だったら 3 : たべもの編』 マガジンハウス.
- 池田香代子 (2006) : 『世界がもし100人の村だったら 4 : 子ども編』 マガジンハウス.
- 池田香代子 (2008) : 『世界がもし100人の村だったら : 完結編』 マガジンハウス.
- 池田香代子 (2017) : 『世界がもし100人の村だったら : お金編 たった1人の大金持ちと50人の貧しい村人たち』 マガジンハウス.
- 田中美知太郎 (2005) (訳) : 『ピレポス』 プラトン著, プラトン全集〈4〉, 岩波書店.
- 本田裕志 (2012) (訳) : 『人間論』 トマス・ホッブズ著, 近代社会思想コレクション, 京都大学学術出版会.
- Greimas, A.J. (1970) : *Du sense*. Paris.
- McDonald, P. (2012) : *The Philosophy of Humour*. (Philosophy Insights)
- Polimeni, Joseph & Jeffrey P. Reiss (2006) : "The First Joke: Exploring the Evolutionary Origins of Humor". In: *Evolutionary Psychology*, 347–366.
- Schopenhauer, A. (1819) : *Die Welt als Wille und Vorstellung*. Erster Band.
- Searle, J.R. (1969) : *Speech Acts: An Essay in the Philosophy of Language*.

—たなか まさとし・法学部准教授—